

第3章 第4次計画の基本方針と重点的な施策

第1 基本方針

第4次計画では、第3次計画期間中における取組の成果を踏まえ、第3次計画で掲げた発達段階と生活の場（※家庭・学校・地域等の子どもが生活をする場）に応じた取組を基礎とし、第2章で把握した課題とその要因を踏まえ、次のとおり基本方針を定めます。（第3章「第8 生活の場ごとの役割と取組例」参照）

基本方針

発達段階や生活の場に応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみながら読書活動を行うことができる環境整備をするために、大阪全体で取組みます。

第2 視点

基本方針に基づき取組む上で留意が必要な事項

- ・令和元年度読書調査において、小学生、中学生及び高校生の発達段階によって、読書をしていない理由等に異なる特徴が見られたこと。
- ・「読書のために時間を割かない」、「興味を持てるような本がない」、「本を読むことが面倒」などの理由により、読書活動ができていない子どもがいること。

このような状況を踏まえて、以下の2つの視点で子ども一人一人に合った読書環境を整備します。

視点

1. 発達段階の特徴に沿った読書活動推進
2. 読書活動ができていない（読書のために時間を割かない・興味を持てるような本がない・本を読むことが面倒）子どもへの読書環境整備

第3 計画における読書の位置づけ

「読書」とは、多くの辞書によると、本や書籍、図書、典籍など一冊に綴られた「書物を読むこと」と定義されていますが、目的や状況、自らのスタイルに応じて、ふさわしい「読書」の手法があり、「物語などの紙の本を一冊読むこと」のみが「読書」ということではありません。

小説などの物語だけでなく、新聞などを読んだり、絵本などを人に読んでもらったり、本を見て触って感じたり、写真集や絵画集を見て感じたり、図表や地図などの必要な内容を読み取り活用することも「読書」であり、紙媒体だけでなく、電子媒体で本を読むことも「読書」です。

また、本を一冊全て読むことだけでなく、自分の興味・関心がある箇所を読んだり、見たりすることにより、知識を得ることや、心に留めることも「読書」です。

第4次計画では、読書概念を広く捉え、子どもが、発達段階や生活の場の状況に応じて、自分自身に合った読書活動ができるよう「読書」を位置づけます。

第4 計画期間

計画期間は、令和3年度から令和7年度までのおおむね5年間とします。

第5 成果指標

令和元年度読書調査では、読書をしない主な理由は、「読書のために時間を割かない」「興味を持てるような本がない」「本を読むことが面倒」などが挙げられ、発達段階によって異なる理由で読書活動ができていない子どもが増加していることがわかりました。第4次計画では、一人でも多くの子どもが読書活動を行うことをめざし、「不読率の改善」を成果指標に掲げることとします。

成果指標

少しでも本を読む子どもを増やすことをめざし、計画期間最終年度までに「本を全く読まない子ども」の割合（不読率）を全国平均（令和元年度：小学6年生18.7%、中学3年生34.8% ※）以下とする。※全国学力・学習状況調査結果（文部科学省）による数値

「全国学力・学習状況調査」（文部科学省）の児童・生徒に対する質問「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどのくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。）」に対し、「全く読まない」と回答した児童・生徒の割合

	小学6年生	中学3年生
全国	18.7%	34.8%
大阪	24.4%	44.8%

※令和元年度 全国学力・学習状況調査結果
(令和2年度の全国学力・学習状況調査は実施なし)

第6 取組の方向性

取組の柱

第4次計画では、子どもの読書活動を進めるために、以下の「5つの柱」に示す考え方に基づき、発達段階の特徴を捉えながら、子ども一人一人に合った読書環境を整備します。

【ことばを知り】

本の読み聞かせや朗読で話を聞いて「ことば」を理解すること、自分で本を読めるようになることなど、理解できる「ことば」の量を増やしていくことが必要です。

【本にひかれ】

本を読みたいと思う気持ちは読書活動をする上で大切なことです。本に興味・関心を持つきっかけは、保護者などまわりの大人からの本の読み聞かせや、まわりの大人や友達からのお勧めの本の紹介、インターネットやメディアの影響によるものなど様々です。子ども一人一人がそれぞれ興味・関心を示すものに応じて、まわりの大人が、本を読みたいと思う気持ちへ導くことが重要です。

【本に出合い】

読書をする子どもは、本を読んで「楽しい」「新しいことが発見できる」「感動を得ることができる」「いろいろな人の考え方に触れることができる」など、本の持つ魅力を認識しています。魅力を実感することができる本との出合いが、子どもが自ら本を読む行動に移るきっかけとなります。子どもの身近な場所で本と出合う環境を整えることが大切です。

【本に親しみ】

読書の魅力を知り、自主的に読書に親しむようになれば、読書習慣が身につきます。読書の魅力を知っている子どもは、多様な選択肢のある生活の中で、一時的に読書から離れることがあっても、興味や必要性が生じたときに、気軽に本を開くことができます。

子どもが読書習慣を身につけるためには、学校や家庭等において、短い時間であっても、子どもが本に親しむ時間を取れるような環境を整えることが重要です。

【本に学ぶ】

読書は、感動や新たな知識を得るだけでなく、社会の中で生きていく様々な力を育む助けとなります。

物語を読むことで、文章を読み取る力や情景を想像する力を身につけることができ、また、新聞、図鑑、地図などから必要な情報を選び活用することは、情報活用能力を身につけるための基礎となるだけでなく、自ら学び、考え、問題を解決しようとする資質や能力の向上にも繋がります。

子どもが、自分の目的に応じた本を探し、そこから読み取る力をつけていくことができるような環境を整えることが重要です。

【発達段階ごとの特徴と取組の柱】

読書に関する発達段階ごとの特徴として、以下の表のような傾向があることを踏まえつつ、乳に
 応じて、全ての子どもが読書への興味・関心を高め、必要な知識を得るとともに、自ら楽しみ
 なお、支援が必要な子どもについても、一人一人の状況に応じて、読書環境の整備のための具

5つの柱	ことばを知り	本にひかれ
めざす姿	<ul style="list-style-type: none"> ・文字やことばを知る ・ことばを聞きとる 	<ul style="list-style-type: none"> ・本で物語を楽しみたい ・本で何かを知りたい、調べたい
乳幼児の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・生後4か月頃からまわりの大人の読み聞かせを通して、少しずつ様々なことばを知ることができます。そして、もの・場面・絵を結びつけていきます。 ・4歳頃から文字に興味を示すようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと触れ合いながら絵本で読み聞かせをすることにより、絵本に興味を示すようになります。 ・4歳頃から、文字に興味を示すこと等により、自分で本を読むようになります。
小学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年では、本の読み聞かせを聞くだけでなく、語彙の量が増え一人で本を読むことができるようになります。 ・中学年になると、更に語彙の量が増え、推測しながら文意をつかむことができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達や家族、学校の先生など身近な人からの影響が大きく、身近な人に勧められた本に興味を持ちます。 ・アニメや漫画の原作や関連の本にも興味を示すようになります。
中学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・多読の傾向は減少し、共感したり感動したりできる本を選んで読むようになります。 ・自己の将来について考え始めるようになり、読書を将来に役立てようとするようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大人との関係よりも、友人関係に自ら強い意味を見出す時期であるため、友達から紹介された本や、ドラマや映画の原作や関連の本に興味を示すようになります。
高校生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の目的、資料の種類に応じて、適切に読むことができる水準に達し、知的興味に応じ、一層幅広く、多様な読書ができるようになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時期より、インターネットやメディアなどの影響を受けやすくなり、SNSや、インターネットで気になった本に興味を示すようになります。 ・自分が好きな作家の本に興味を示すようになります。

幼児の時期、小学生の時期、中学生の時期、高校生の子どもの一人一人の発達段階や生活の場ながら読書活動を行うことができる環境整備をするために大阪全体で取り組むことが重要となります。体的な方策に取組みます。

本に出会い	本に親しみ	本に学ぶ
<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい本と出会う ・新たな発見ができる本と出会う <p>・まわりの大人が、子どもの反応を見ながら、読書環境を提供することにより、子どもが楽しいと思う本と出会うことができます。</p> <p>・子どもの身近なものや食べる・寝るといった動作などの本に興味を示すようになります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読書を身近に捉える ・自ら好きな時に自由に本を読む <p>・子どもが手の届く場所に本がある読書環境の中で、子どもは、自分が読みたい本について、まわりの大人に読み聞かせをせがんだり、自分で繰り返し読もうとします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容を読み取る ・必要な情報を活用する <p>・絵本の絵で想像力を育てたり、読み聞かせて聞いたことばを真似したり、ごっこ遊びをすることで、自分の感動を自分のことばで表現することの楽しみを感じるようになります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・生活の身近な場所である家や、学校・地域の図書館で本を選ぶ傾向にあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら沢山の本を読むようになっていきますが、中学年になると、個々の状況により読書活動に差がでてくる場合があります。 ・子ども一人一人の読む力に応じて読書量や読書の種類に変化が生じます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文字で表された場面や情景をイメージするようになります。 ・課題解決のための読書活動を通して読解力や発表力が育まれていきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・行動範囲が広くなり、本屋で、本を選ぶ傾向がある一方で、図書館で本を選ぶことが少なくなる傾向があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時期では、部活動や塾など、高校生の時期になると、部活動や塾に加えてアルバイトなどにより、読書をする時間がないという傾向が顕著に現れはじめ、読書から離れる子どもが多くなります。 ・読書活動を継続している子どもは、学校の休み時間を使って本を読んだり、自分が読みたいときに、スキマ時間を使って本を読んだりします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時期・高校生の時期の多様な読書活動を通して、理性と感性が磨かれるとともに、社会生活で必要となる相手の言葉を理解し、自分の気持ちを的確に伝える語彙力を育むことができるようになります。 ・多角的な視野で世界を認識する力が育まれていきます。 ・知覚した情報の意味を吟味したり、文章の構造や内容を的確に捉えたりしながら読み解くことができるようになります。
<ul style="list-style-type: none"> ・中学生の時期より更に行動範囲が広がり、中学生の時期と同様に本屋で本を選ぶ傾向にあります。 ・インターネットを利用して、本を探したり、選んだりすることもあります。 		

第7 府の重点的な施策と具体的方策

子どもを取巻く社会情勢の変化や子どもの発達段階ごとの特徴に鑑み、府として実施する重点的な施策を7つ掲げ、具体的方策に基づき取り組んでまいります。

なお、具体的方策については、計画期間中の情勢の変化により、事業内容を随時見直す等の検討を行います。

重点的な施策 Ⅰ 読書活動普及・啓発

様々な広報媒体を活用し、読書活動ができていない子どもが少しでも本に興味・関心を持つよう読書活動の普及啓発を行っていきます。

また、保護者など子どもの身近な大人が、読書をする姿を子どもに見せることは、子どもにとって大きな影響を与えることから、時間のない大人にも、少しの時間でも本に触れてもらえるよう読書活動の社会的気運の醸成に向けた取組を進めます。

具体的方策

具体的方策	
乳幼児の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆えほんのひろばの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・商業施設などで、本との出会いの機会を提供するため、えほんのひろばを実施 ◆おはなし会の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・府立中央図書館におけるおはなし会の実施
小学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆小学生向け読書イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・オーサービジット等の読書イベントの実施 ◆ミニコミ誌^{*17}等を活用した読書活動啓発の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・児童に直接届くミニコミ誌等を活用した読書活動啓発
中学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆中高生向け読書イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトル大会や、オーサービジット事業、POPづくり、高校生のための図書館講座「LibCo(りぶこ)」^{*18}等の読書イベントの実施
高校生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆SNSやミニコミ誌等を活用した読書活動啓発の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒に直接届くSNSやミニコミ誌を活用した読書活動啓発の実施
	<ul style="list-style-type: none"> ◆「子ども読書の日」・「こどもの読書週間」^{*19}におけるイベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・「子ども読書の日」「こどもの読書週間」に合わせて府民に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるイベントを実施 ◆「こころの再生」府民運動^{*20}と連携した読書活動の普及・啓発 ◆OSAKA PAGE ONE キャンペーン^{*21} <ul style="list-style-type: none"> ・公民連携による読書活動普及・啓発 ・家読（うちどく）^{*22}や、スキマ時間読書・つまみ読書などの普及 ◆読書活動普及啓発広報物の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・映画のタイアップポスター等、様々な広報媒体を活用し、読書活動普及啓発を実施 ◆国際児童文学館^{*23}の資料展示・イベントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・国際児童文学館が所蔵する国内外の貴重な資料を活用することによる読書への関心を高める取組の実施

重点的な施策 2

乳幼児の時期の保護者や教育保育施設への読書活動支援

乳幼児の時期の子どもの読書活動については、家庭が大きな役割を担っています。

令和元年度読書調査において、8割以上の保護者が、子どもに絵本や本を読んだことがあると回答しており、多くの保護者が読み聞かせの重要性を認識していると考えられます。

一方で、保護者に対する読書活動の取組を行うことができていない教育保育施設へ理由を聞いたところ、読書活動の手法がわからない、施設が狭いため本を置くスペースがない、また、時間がない保護者がいるという回答がありました。

そこで第4次計画では、読書活動の取組を行うことができていない教育保育施設や、時間のない保護者に焦点を置いて幅広い支援を実施します。

具体的方策

乳
幼
児
の
時
期

- ◆教育保育施設職員への子ども読書活動に関する研修の実施
 - ・教育保育施設の職員等を対象とした読み聞かせ講座等の研修を実施
- ◆特別貸出用図書セットの充実
 - ・言葉遊び、食べもの等、子どもの興味や生活に応じたテーマでそろえた絵本のセットのほか、手遊び・わらべうた等のセットの充実
- ◆ボランティア養成講座の実施
 - ・乳幼児の時期の子ども・保護者に対する読み聞かせなどのボランティアの養成講座の実施
- ◆府立中央図書館ホームページ「こどものページ」「子どもの読書活動推進のページ」の活用
 - ・府立中央図書館のホームページ「こどものページ」「子ども読書活動推進のページ」を活用し、保護者や教育保育施設職員に対して、司書の知識と経験をもとに集めた魅力的な子どもの本や情報を提供
 - 「こどものページ」
[<http://www.library.pref.osaka.jp/site/kodomo/>]
 - 「子どもの読書活動推進のページ」
[<http://www.library.pref.osaka.jp/site/central/dokusho-katsudo.html>]
- ◆ブックスタート*²⁴など、家庭や地域における読み聞かせ活動の支援
 - ・府の新子育て支援交付金*²⁵の活用による市町村のブックスタート等の全ての保護者を対象とした乳幼児の時期の読書環境の取組支援

重点的な施策 3 中高生が読書への興味・関心を高めるためのインターネットを活用した取組

「青少年のインターネット利用環境実態調査」（内閣府）結果によると、インターネットでの動画視聴やゲーム等、特に中学生では3時間程度、高校生では4時間程度の利用時間となっています。また、情報や学びを得るためのツールとして、Twitterなどの短文中心のSNS等を使用している割合が高いことから（『18歳意識調査』第30回－読む・書く－（日本財団））、読書への興味・関心が高まるようにインターネットを活用した取組を進めます。

具体的方策

中学生の時期

- ◆府の公式 Twitter における中高生向け本の紹介「さあ、本を読もう！」を実施
 - ・大阪府広報担当副知事“もずやん”がつぶやく府公式 Twitter での「さあ、本を読もう！」コーナーにおいて、大阪府職員が、主に中高生に向けたおすすめ本を選書し、紹介

高校生の時期

- ◆「さあ、本を読もう！」への中高生からの投稿の実施
 - ・「さあ、本を読もう！」に投稿機能を加え、新たに中高生からのおすすめ本を投稿できる参加型とし、中高生の読書に対する興味・関心を高める取組を実施
- ◆大阪府中高生ビブリオバトル大会の動画配信等の実施
 - ・平成27年度から実施している「大阪府中高生ビブリオバトル大会」を、第4次計画期間中も引き続き実施
 - ・大会の様子を大阪府ホームページで動画配信し、来場できない生徒にも視聴できる取組を実施
- ◆オーサービジット事業（中高生向け）の動画配信等の実施
 - ・平成29年度から実施している「オーサービジット事業（学校園への作家訪問）」を第4次計画期間中も引き続き実施
 - ・オーサービジット事業の様子を大阪府ホームページで動画配信し、学校教育現場におけるオーサービジット事業の普及を促進
- ◆「YA!YA!YA!べんりやん図書館」の活用
 - ・府立中央図書館の中高生（YA世代）をメインターゲットに図書館の使い方を紹介したウェブサイト「YA!YA!YA!べんりやん図書館」において、中高生が読みたい本を見つけられるよう様々なジャンルの本を紹介

重点的な施策 4 支援が必要な子どもへの読書環境づくり

令和元年に「読書バリアフリー法」が施行され、全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を受けることができる社会の実現が求められています。

障がいのある子ども一人一人の状況に応じることができるよう点字図書やデジター図書*26、LLブック*27などアクセシブルな書籍*28の整備と、子どもの読書活動に関わる支援者の育成を図ります。

また、府において、日本語指導が必要な児童・生徒数及び言語数は増加傾向にあります。日本語指導が必要な子どもの状況に応じ、読書に関心を持ち、豊かな読書活動が行えるよう様々な機会や環境を整備します。

具体的方策

乳幼児の時期

- ◆府立中央図書館における子ども向けの点字図書、デジター図書、LLブック等の充実
 - ・点字図書、デジター図書、LLブック等の更なる充実
- ◆府立中央図書館における多言語で書かれた絵本の充実や、おはなし会の実施
 - ・現在所蔵している40数ヶ国の絵本の更なる充実と、それらを活用したおはなし会の実施

小学生の時期

- ◆えほんのひろばや読み聞かせなど、支援が必要な子どもの状況に応じた本との出会いを提供
 - ・えほんのひろばにおける点字図書や多言語図書の配架
 - ・府立中央図書館や支援学校等において、手話でのおはなし会等を実施
- ◆特別貸出用図書セットの充実及び協力貸出の実施
 - ・多言語で書かれた本、誰もが楽しめる文字なし絵本等の貸出セットを充実し、学校や教育保育施設、ボランティア等の団体に貸出を実施

中学生の時期

- ◆障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもに対する読み聞かせ活動の支援
 - ・府の新子育て支援交付金の活用による障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもに対する市町村の読み聞かせ活動の支援

高校生の時期

- ◆子どもの読書活動に関わる支援者に対する研修や講演等の実施
 - ・支援が必要な子どもの読書活動の現状や課題・方策について、子どもの読書活動に関わる支援者に対する研修や講演等を実施
- ◆図書館利用に困難がある子どもやその保護者に対するサービスの実施
 - ・図書館利用に困難がある子どもやその保護者に対して、郵送貸出や、アプリケーション*29・ソフトを利用した対面朗読*30サービス等を実施

重点的な施策 5 子どもに本を届けるネットワークの整備

令和元年度読書調査において、本を選ぶ場所として小学生は「学校図書館（図書室）」、中高生では「本屋」が一番多く、選び方としては、学年が低いほど身近な人から勧められた本を選ぶ傾向が高い一方で、読書をしない理由として、「家に読みたい本がない」「本の値段が高い」「本屋が近くにない」などの回答があり、様々な事情により子どもの身近な場所に本がないこともわかりました。

このような発達段階ごとの特徴を考慮し、様々な場所・状況にいる全ての子どもが「読みたいと思える本」と出合うため、興味・関心が向くような本が子どもに届けられるようネットワークを充実するとともに、ボランティアや、子どもの読書活動に関わる支援者に対して、本に関する情報や読書手法等を届けることができるよう取組を実施します。

具体的方策

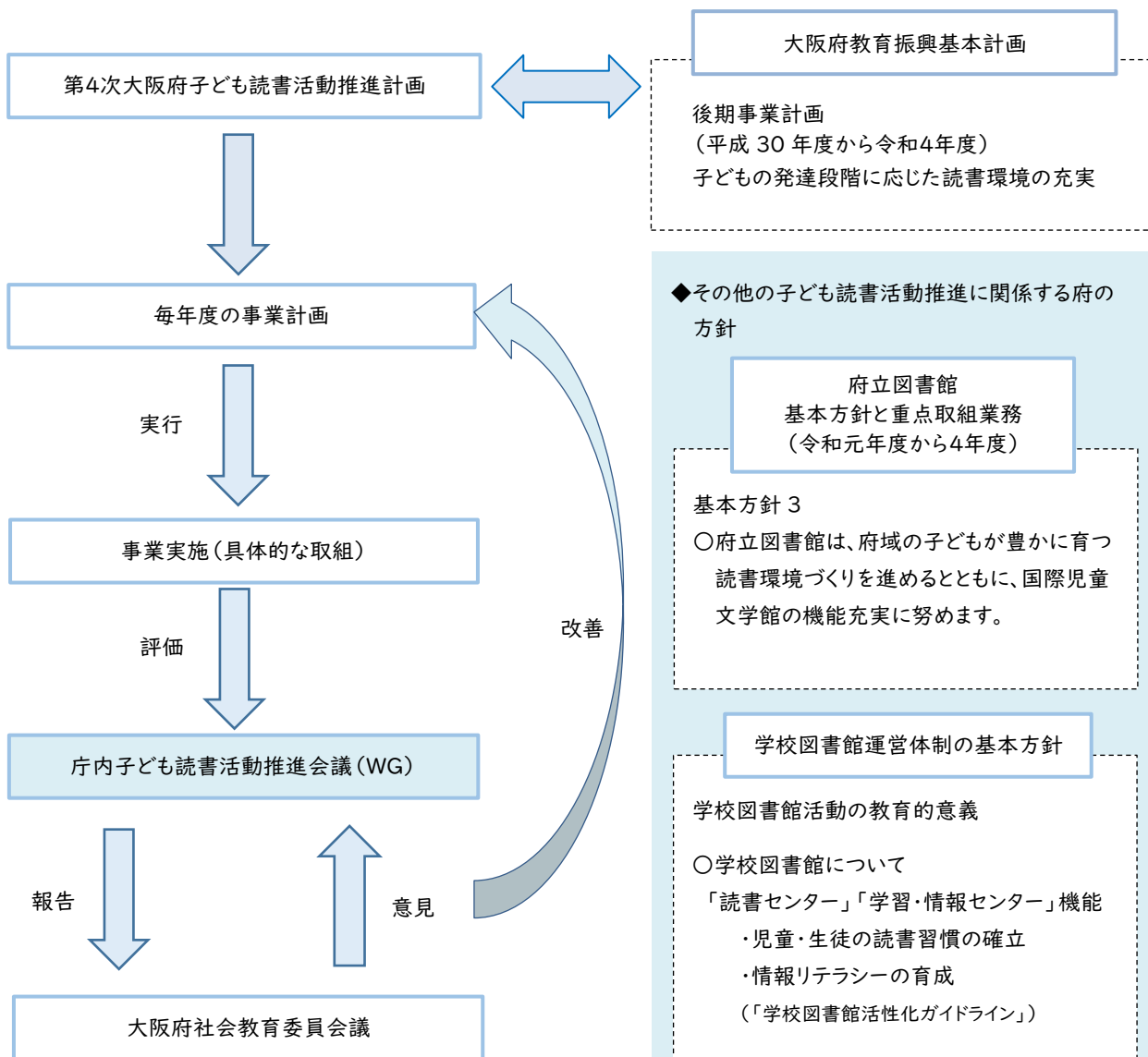
具体的方策	
乳幼児の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別貸出用図書セット（絵本）の貸出 <ul style="list-style-type: none"> ・絵本の特別貸出用図書セットの貸出 ◆ボランティアとの連携支援 <ul style="list-style-type: none"> ・教育保育施設におけるボランティアによる読み聞かせ等の取組支援
小学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別貸出用図書セット（朝読・調べ学習等）の貸出 ◆ボランティアと学校の連携支援 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校におけるボランティアによる読み聞かせ等の取組支援
中学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別貸出用図書セット（朝読・調べ学習等）の貸出 ◆時間がない子どもに対するおすすめ本の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・部活動や塾などで読書活動の時間のない子どもに対して、短時間で読むことのできる短編本等を紹介
高校生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ◆特別貸出用図書セット（朝読・調べ学習等）の貸出 ◆学校図書館を活用できる時間の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・府立高等学校の生徒が学校図書館を活用できるよう開館時間を確保
	<ul style="list-style-type: none"> ◆おすすめ本紹介冊子の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・「だっこでよんで」「よんでよんで」「ほんだな」等の作成 ◆学校図書館（「学習」「情報」「読書」センター機能）の活用促進 <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育現場の職員に対して、フォーラムやホームページでの好事例の紹介等を実施 ◆人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座等の実施 ・府内の図書館職員等のスキルアップに役立つ講座等の実施 ◆特別貸出用図書セットの貸出 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館未設置自治体公民館図書室、地域型保育病院内患者図書室、児童福祉施設、矯正施設等への貸出支援の実施 ◆読書活動支援者に対する読書関連講演や好事例の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・図書館司書やボランティア等を対象としたフォーラムの実施 ・府立中央図書館における「新刊紹介」講座の実施

重点的な施策 6 子どもの読書活動を進めるための組織の設置

子ども読書活動の推進に取組む関係各課による子ども読書活動推進会議（ワーキンググループ）を設置し、子どもの読書活動の取組の進捗管理、子どもの読書活動を取巻く環境の変化や課題の共有とともに、毎年度事業計画の内容を検討します。

また、その内容について、大阪府社会教育委員会議^{*31}へ毎年度報告し、意見を聞きながら、取組に反映していきます。

大阪府子ども読書活動推進会議体制



重点的な施策 7 電子書籍の活用検討

新型コロナウイルス感染症の影響により、非来館による図書館資料の利用や、電子書籍への関心が高まっています。

また、近年子ども向けのコンテンツ*32を含む電子書籍貸出サービスを導入する公立図書館は、府内でも増えつつあります。

府立図書館において、電子書籍の活用に関する調査・検討を行うとともに、無料コンテンツの紹介等の取組を進め、より良い読書環境が整備されることをめざします。

子どもの電子書籍活用状況

○「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」

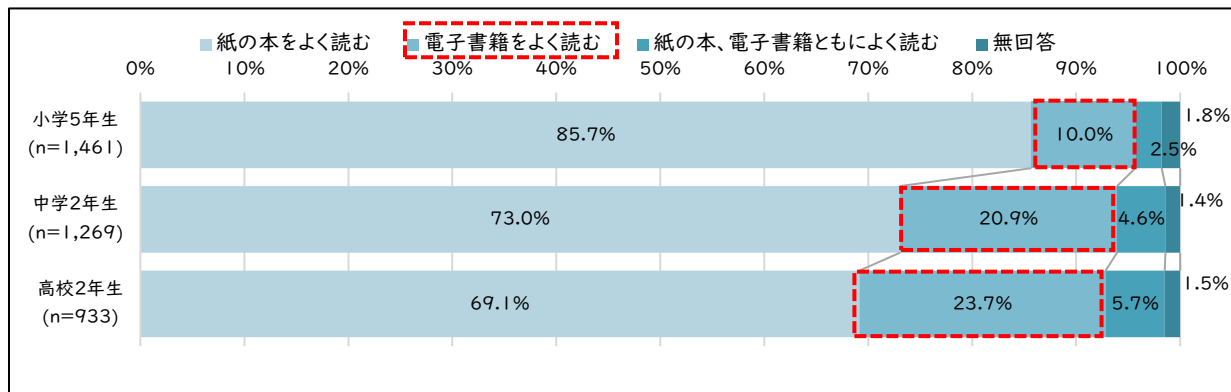
- (1) 調査地域：全国
- (2) 調査対象者：小学校5年生から高校3年生相当の子どもとその保護者
- (3) 標本数：12,489

国の第四次基本計画では、スマートフォン等の電子メディアの普及が子どもの読書環境に影響を与えている可能性があることを踏まえ、その影響に関する実態把握・分析を行う必要があるという認識が示されています。子どもの電子メディアの利用実態を把握し、読書活動等との関係を捉えることを目的に平成31年3月に、「子供の読書活動の推進等に関する調査研究」（文部科学省）結果が公表されました。

その結果によると、過去1ヶ月間に電子書籍を読んだ割合は、小・中・高いずれも2割程度でしたが、どの学年においても、4割台の子どもが図書館等において電子書籍を借りられるようになると良いと思っているとの結果が得られました。

○令和元年度読書調査

- ・ 普段、紙の本と電子書籍のどちらの本をよく読みますか。



大阪府が実施した令和元年度読書調査においても、電子書籍を読む割合は、紙の本と比べ、少ないという結果となりました。

第8 生活の場ごとの役割と取組例

1. 生活の場ごとの役割

(1) 家庭

子どもの読書活動については、家庭が大きな役割を担っています。

子どもにとって最も身近な存在である保護者が配慮・率先して「子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすこと」（推進法第6条「保護者の役割」）が求められています。

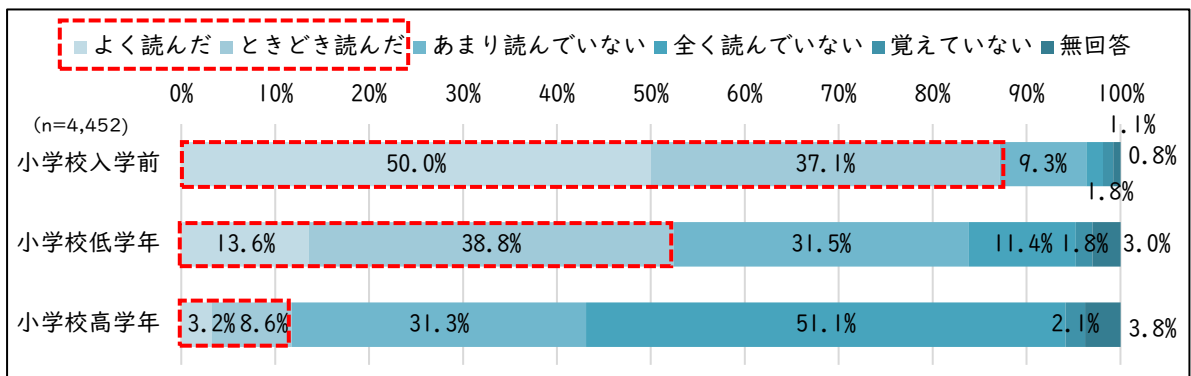
令和元年度読書調査では、子どもに対して、絵本や本の読み聞かせをほとんどの保護者が実施しており、小学校入学前等に読み聞かせをしてもらった経験がある子どもほど本を読む割合が高い傾向にあることがわかりました。

子どもの読書活動は、日常生活を通じて形成されるものであり、乳幼児の時期から生活の中で本に親しむ機会が提供されることが必要です。

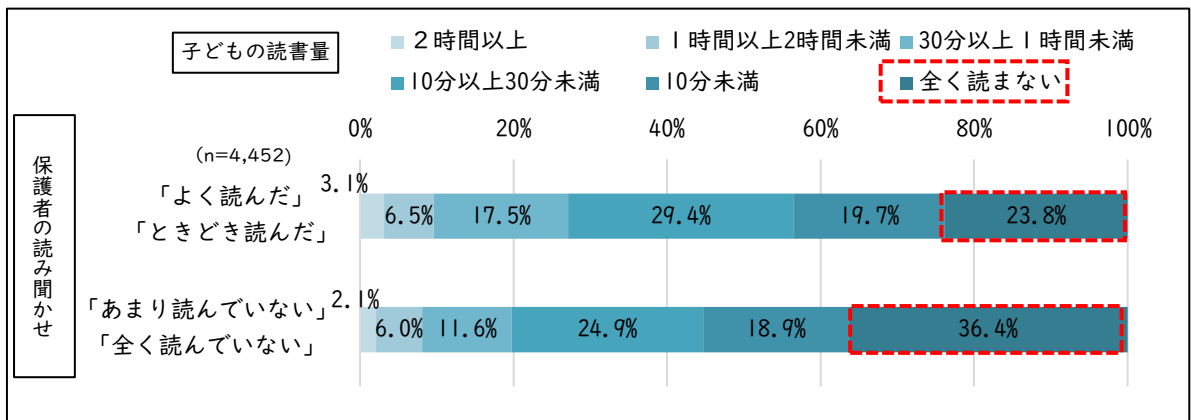
このため、家庭においては、読み聞かせをしたり、子どもと一緒に本を読んだり、図書館や本屋に出向くなど、工夫して子どもが読書に親しむきっかけをつくることが重要です。

また、読書活動の機会の充実及び習慣化を図るために、保護者自身も本に親しみ、読書に対する興味・関心を引き出すよう働きかけることが望まれます。

○保護者の子どもに対する読み聞かせ



○小学校入学前の読み聞かせと子どもの読書量の関係



(2) 学校等

子どもが自ら進んで読書を楽しみ、読書に親しみ、読書を活かす習慣を形成していく上で、学校等はかけがえのない大きな役割を担っています。新学習指導要領では、言語活動の充実とともに、学校図書館を計画的に利用し、その機能の活用を図り、児童・生徒の自主的な読書活動を充実することが規定されています。

また、幼稚園教育要領等において、絵本や物語に親しむ活動を積極的に行うことが期待されています。

これらを踏まえ、学校等においては、学校司書や司書教諭を含む教職員間の連携に留まらず、公立図書館やボランティア等と連携することで、学校図書館の開館時間の確保や図書の実質、授業等での学校図書館の活用等に努め、全ての子どもが自ら進んで読書に親しみ、読書の幅を広げていくことができるように適切な支援を行うとともに、そのための環境を整備することが求められます。

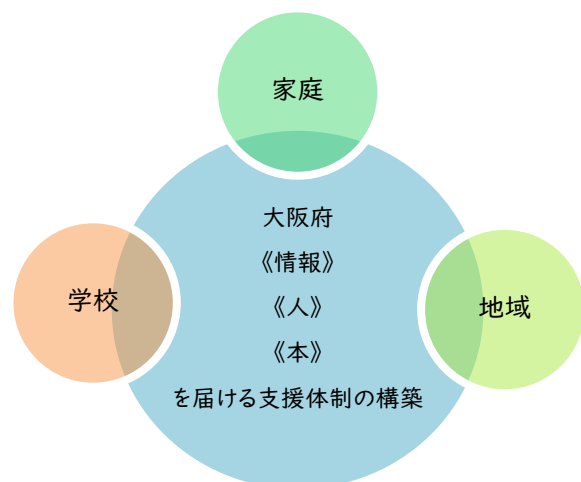
(3) 地域（公立図書館、公民館、書店等）

様々な事情により読書活動ができていない子どもが、いつでもどこでも本に親しむことができるよう、読書活動が身近で行える環境を整備することが必要です。公立図書館は、子どもが探していた本だけでなく、思いがけない本と出会い、自主的に読書を楽しむことのできる場所であり、地域における読書活動推進の中核的な役割を果たしています。今後さらにその役割を果たすよう努めることが望まれます。

児童館や公民館等の図書室は、身近な読書活動を行う施設として機能しており、公立図書館等と連携し図書資料等を整備することが求められます。また、読書活動に関し専門的知識を持つ者やボランティア等多様な人々と連携・協力し、読み聞かせ、おはなし会等、子どもに読書活動の機会を提供する取組の実施に努めることが望まれます。

また、子どもの読書活動の推進を社会全体で効果的に取組むためには、公民連携による普及・啓発が大切です。

これまでも街なかにおいては、メディア、出版業界、書店、商業施設等の民間事業者や、子ども文庫^{*33}、まちライブラリー^{*34}等において、自由な発想により、府民に「読書の楽しさと重要性」を伝えていく各種の活動が推進されています。引き続き、民間事業者等と行政とが持続的な協力関係を築いたり、子ども読書推進に関わる団体のネットワークづくりを進めることが望まれます。



2. 生活の場ごとの取組例

子どもの発達段階の特徴に応じた生活の場ごとの取組を例示しました。

様々な事情により読書活動ができていない子どもや支援が必要な子どもを含めた全ての子どもにとって読書がごく自然な活動として定着するために、生活の場ごとの役割を基本に取組むとともに、さらに効果的なものになるよう関係機関が連携・協力することが望まれます。

	家庭	学校等		地域 (公立図書館、公民館、書店等)		
				公立図書館等	書店等	
乳幼児の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに読み聞かせる 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本や紙芝居等の読み聞かせの実施 ・保護者に対する読書活動の実施 ・ボランティアとの連携 		<ul style="list-style-type: none"> ・公立図書館との連携 ・異年齢による子ども同士の読み聞かせや、子どもが相互に本を紹介する取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会の実施 ・保健センターとの連携(ブックスタート・読み聞かせの実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校図書館(教育保育施設)への支援 ・学校・教育委員会との連携・ネットワークづくり ・(民間団体)教育保育施設や学校への読書活動支援 ・(出版社・書店等)読書啓発・普及、行政との連携協力
小学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもと一緒に公立図書館、書店に行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書イベントの実施(読み聞かせ等) ・ボランティアとの連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉読書の実施 ・授業等での学校図書館の整備・活用 		<ul style="list-style-type: none"> ・読書イベントの実施 	
中学生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが自ら好きな本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書イベントの実施(ビブリオバトル等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・家読(うちどく)の推奨 		<ul style="list-style-type: none"> ・YAコーナーの充実 	
高校生の時期	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもがスキマ時間を見つけて本を読む 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動や部活動等生徒主体による読書活動の活性化 			<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用した読書活動に関する情報提供 	

3. 生活の場ごとの読書活動事例

生活の場における読書活動の取組のヒントとなるよう、子どもが読書への興味・関心が高められるような読書活動や、読書活動時間を取ることができない保護者への活動、子どもが主体となって実施する活動等、府内の学校や図書館・地域において実践されている取組事例をご紹介します。

大阪府ホームページにおいて、その他読書活動事例を掲載しています。

[<http://www.pref.osaka.lg.jp/chikikyoiku/kodomodokusyo/index.html>]

(1) 学校等

様々な絵本の読み聞かせ

≪大阪市立平野西保育所≫

○1分間の座布団読み

- ・月に1度、お迎えの際に保護者に1分間で読むことができる赤ちゃん絵本の読み聞かせを行ってもらっている。
- ・保護者と乳幼児のスキンシップの時間の確保、乳幼児の本離れの解消、保護者も乳幼児も一緒に絵本の面白さを感じてもらうことを目的として平成25年より実施している。保護者の膝に座って絵本を読んでもらうことから、座布団1枚のスペースでできる「座布団読み」と名付けて行っている。
- ・絵本の読み聞かせの大切さはわかっているが、年齢に応じた長い本を読まないといけなと感じており、時間が取れないと思っている保護者が多い中、1分程度で読み切れる赤ちゃん絵本を用意し、忙しい保護者でも無理なく取組むことができるものとなっている。

[効果]

- ・乳幼児は毎月の座布団読みの日を楽しみに待ち、めあての絵本を持って嬉しそうな顔をして保護者の膝に座ってお話を楽しんでいる。忙しい日々の中でも1分という短い時間の中で、本というツールを通して親子のコミュニケーションを図る一助となっている。



○「月刊絵本」*35の日々（にちにち）読み

- ・等しく読書環境が整備できるよう0歳児から5歳児全ての乳幼児を対象に、「月刊絵本」を購入し、全員に配付している。
- ・乳幼児は「自分の本」に愛着を持ち、毎月届く嬉しさから絵本がますます好きになり、大切にしている。

「月刊絵本」は1ヶ月間保育所で乳幼児の手元に置き、保育士が毎日順々に乳幼児1人の「月刊絵本」を選んで読み聞かせを行っている。内容は同じものを繰り返すが乳幼児にとっては今日読んでもらう本は「自分の本」であり、その日は保育士の前の特等席に座ってお話を聞き、特別な1日を感じている。乳幼児は毎日お話を聞くことで、絵本の内容をしっかりと自分のものにし、お話の世界に入って楽しんだり、文字の読めない乳幼児でも自分で絵本を開いて楽しむことができている。

- ・1ヶ月後に、「月刊絵本」を家へ持ち帰ると、家で保護者相手に幼児自身が読み聞かせをしているという話も聞く。また、絵本の内容が幼児の中に浸透すると、絵本の内容から運動遊びやお絵かきなど自ら遊びで表現したり、年長になると劇を創作するなど、自ら創造する行動が見られるようになっていく。

[効果]

- ・日々読みの実施により、絵本の世界を楽しみながら、ことばを覚え、自ら遊びや物語を作り出すなど、乳幼児の様々な力を養うことに繋がっている。



児童主体による読書活動の活性化

《枚方市立西牧野小学校》

○図書委員による読書活動

- ・平成30年度より、司書教諭及び図書部の教員の指導のもと、図書委員に所属している児童が全児童の読書ノートの進捗を把握することに加えて、読書量の多い児童に贈呈する「しおり」の作成や、おすすめ本の紹介、読書期間中の読み聞かせ等を行っている。
- ・また、同年度より、学校図書館担当職員を中心として、「図書館オリエンテーリング」を実施し、授業に必要な蔵書をそろえたり、中学校区内の他の小学校と蔵書情報を共有したりすることで、調べ学習の内容や回数について共通点を持たせている。

[効果]

- ・図書委員の活動を活発化させ、図書委員の児童が意欲的に活動できるようにすることで、図書委員が中心となって他の児童と学校図書館の利用や読書を繋げる取組が進んでいる。



学校図書館の活用

《羽曳野市立古市南小学校》

○読書月間の設置

- ・毎年、6月にあじさい読書月間、11月に秋の読書月間を定めている。
- ・学校図書館の本を借りる際に、スタンプを押す「スタンプラリー」や「読書すごろく」「先生のおすすめ本」を読むなど取組んでいる。

○家読の実施

- ・全学年で家読を実施し、毎月「うちどくカード」に家読を取組んだ日や読んだ本を記入。
- ・4月に保護者向けの手紙を出し、家庭での協力をお願いし、6月・11月の読書月間の期間には「おうちの人からのひとこと」をつけて家読の様子等、保護者からコメントをもらっている。

○朝の読書タイムの実施

- ・全校一斉で、毎日8時30分から40分まで読書時間を作っている。

○ビブリオバトルの実施

- ・主に高学年を中心に「ビブリオバトル」を実施している。
- ・保護者に取組を見てもらうため、本番は参観で行った。

[効果]

- ・家読を5年以上、朝読を10年以上続けて実施することにより、読書習慣がついてきており、家庭で読書をする児童の割合が増える等の効果が出ている。また、読書月間には、家読の様子等について保護者からコメントをもらうなど、保護者を含めた取組を実施することにより、児童のみならず保護者に対しても、本への関心を広げ、児童の読書意欲を引き出すことに繋がっている。



≪熊取町立熊取北中学校≫

○読書センターとしての取組

＜来館しない生徒をいざなう図書館イベントの実施＞

- ・ 図書委員が企画・運営を行い、スクールライブラリークイズ、ワークショップ、熊取町立全中学校図書委員交流会、町立図書館見学会など、本を介して多くの生徒が集う場となるようイベントを実施している。

[効果]

- ・ 様々なイベントを実施することで来館する機会を作り、自分にとって楽しい場所、利用価値のある場所だと体験を通して知ってもらう取組となっている。



＜小学校への「本の読み聞かせ交流」の実施＞

- ・ 小中連携の一環として、図書委員が、隣接の小学校へ昼休みの時間を利用して、支援学級を含む全クラスで読み聞かせを実施している。

[効果]

- ・ 全児童から心温まる手紙が届けられ、小学生との繋がりを生む機会となっており、図書委員としての自覚や達成感が得られる活動となっている。

○学習・情報センターとしての取組

＜「朝の読書」と「校内ビブリオバトル大会」の実施＞

- ・ 年間を通し全校で朝の読書を行っており、それを発信する機会として校内ビブリオバトル大会を開催している。

全クラスで取組み、各図書委員がクラスで見本を示して発表し、その後、構成を考え表現を工夫した発表文章を、クラス全員で聞き合い、選出された代表が校内大会で披露している。

そこでチャンプ本（優勝本）に選ばれた代表が、大阪府中高生ビブリオバトル大会に出場している。

＜授業での図書館活用＞

- ・ 主体的な学びをめざし、学校図書館司書と連携し、授業計画を立案し生徒と共有して進めている。

調べ学習では、生徒が課題に対して、集めた情報を整理し考察してまとめる。わかりやすく発信できるように話の展開を考え発表したり、相互評価して振り返ったりする等、問題解決法を学んでいる。

＜全国の新聞（134紙）活用＞

- ・ 複数の新聞を読み比べ、物の見方や考え方を広げるねらいで図書館に見本紙を設置している。

全国紙・地方紙等、新聞それぞれの特徴や役割に気づくきっかけとなっている。

[効果]

- ・ 図書委員が考え実施したアンケートの結果において「読むことが楽しいと思えていますか」「去年より本を読む時間が増えましたか」等の質問に、「はい」の回答が多くを占めていた。

また、考えて書く・話す・聞く等の、言語能力が身についたと実感している感想が見られた。

さらに、授業での図書館活用を通し自分で課題を見つけ、より深め学ぶという力・多くの資料や仲間の発表から、広い視野に立って物事を考える力・情報活用力等の育成に繋げることができている。



学校図書館の整備

《府立山本高等学校》

○利用者全てに利用しやすく親切な図書館—誰にでも優しい図書館をめざして—

- ・合理的配慮に基づきバリアフリーをめざして図書館内の整備を実施した。車椅子の生徒も図書館を利用しやすいよう入口扉を大きく広げ、書架の高さを低くし、更に書架の間隔を広くとる等の改修を行った。
- ・図書委員活動のなかで、しおりにもなるリーディングトラッカー*36を手作りし、カウンターに置いている。
どの生徒も同じように学校図書館での読書を楽しむことができるような取組を実施している。
- ・畳を敷いた閲覧スペースや一人でゆっくりできるコーナー等、誰もが本に親しめる居場所を作るようにしている。

〔効果〕

- ・誰にでも利用しやすく親切な図書館となるよう取組むことで、生徒が多様性を自然に理解し合える環境となっている。
- ・1万冊前後の年間貸出冊数があり、多くの生徒に利用されている。



障がいのある子どもの読書環境づくり

《府立東大阪支援学校》

○BOOK FOREST-おはなしの森-プロジェクト

- ・平成28年度に「第3次大阪府子ども読書活動推進計画」の基本方針に基づき、本に親しみ読書の楽しさと大切さを知り、自発的な読書活動や読み聞かせ活動を行うことができる環境整備に取組むため、「BOOK FOREST-おはなしの森-プロジェクト」を実施した。

＜図書室の整備＞

- ・重度重複の障がいのある児童・生徒が、様々な感覚を使って読書活動・読み聞かせ活動ができるよう図書室中央にある柱を大きな木に見立てて、それを中心にみんなが集う「おはなしの森」をコンセプトに、壁紙・窓枠・暗幕を緑に、天井は空と雲をイメージしたカラーリングとし、児童・生徒がゆったりとおはなしを楽しめるよう工夫した「おはなしスペース」の整備を行った。

＜図書の充実と読書活動推進＞

- ・印刷物を読むことに困難のある児童・生徒のためのマルチメディアデージー*37等の読字支援機器による読書支援や、ページめくりが困難な運動障がいのある児童・生徒のためのデージー図書・電子書籍と自助具等を組み合わせた環境の整備、書画カメラ*38等を導入した視覚支援によるグループ学習の推進等、様々な障がいや発達段階に応じた図書の充実と児童・生徒一人一人に合った読書活動を推進している。

〔効果〕

- ・障がいのある子どもの状況に応じて一人一人が様々な形で読書活動ができるよう基礎的環境整備*39を整えたことにより、子どもが本やデージー図書等を楽しむ様子が見られ、授業での図書室利用が大幅に増え、貸出冊数も増加している。



(2) 地域（公立図書館等）

除籍本の有効活用

《本のリサイクル運営委員会・阪南市立図書館》

○リサイクルブック “つながり”

- ・阪南市立図書館では、毎年約6千冊が新たに加わるため、蔵書が満杯の状態となり、同じだけの本が蔵書から外れている。平成9年から借りる人がいなくなったり、内容が古くなったりして図書館に置くことができなくなった本を、年3回無償で提供する場を設けてきた。
- ・市民からの回数増加の要望もあり、平成29年4月に図書館から提案した市民協働事業として「本のリサイクル運営委員会」が市民有志により結成され、図書館に置ききれなくなった本を阪南市「サラダホール」（図書館やホールが入る複合文化施設）内で安く販売する「リサイクルブック “つながり”」を開店した。
- ・その収益で、阪南市内の子育て総合支援センター・保育所・幼稚園・小学校等の公共施設に本を寄附するという社会還元を行っている。



〔効果〕

- ・図書館が入る複合施設において除籍本をリサイクルする取組は、市民に図書館や読書への関心を高めるものとなっている。また、リサイクルブックの収益により、保育所等へ本を寄附することで、子どもの生活の場における読書環境の充実の一端を担っている。



公民連携による読書推進

《セレッソ大阪・大阪市立図書館》

○読書手帳の配付

- ・大阪市は、平成28年2月に大阪市をホームタウンとするセレッソ大阪（日本プロサッカーリーグ（Jリーグ））と連携協力に関する包括協定を締結し、スポーツの振興、教育、広報など様々な分野においてそれぞれの活動の充実を図り、地域連携を積極的に推進している。
- ・大阪市立図書館とセレッソ大阪は、これまでも読書を通じて豊かな心を育むことを目的とし、協働して様々な活動を実施してきた。
- ・セレッソ大阪25周年の節目の年である平成31年に、「読書推進プロジェクト一冊を読んで、人生を豊かにー」として、大阪市内外の企業や団体とともに、今までの取組に加え、オリジナル読書手帳の配付やセレッソ大阪ホームゲームでの図書館ブース展開、スタジアムで読書をするコラボイベントなど、さらに魅力的な活動を実施することとした。
- ・読んだ本の感想を記入できる「読書手帳」は、大阪市内全小学生約12万人へ配付し、セレッソ大阪の選手や大阪市長のほか、企業の代表者による「おすすめの1冊」の紹介、本を読むごとにシールを貼ったり、読書チャレンジとして、読んだ本の達成数によるプレゼント（セレッソ大阪ホームゲームへの招待）等、子どもが読書への興味を持ってもらえるように工夫している。

〔効果〕

- ・民間事業者の協力を得て、スポーツを通して子どもが楽しみながら読書ができるような取組となっている。



視覚障がいのある子ども等の読書環境づくり

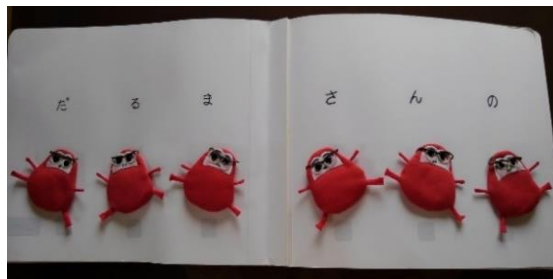
《さわる絵本の会つみき》

○触る絵本の制作

- ・昭和51年、当時大阪市の図書館員だった小西萬知子氏と、視覚障がいのあるお子さんを持つ保護者の力で、触る絵本^{*40}をつくる会「つみき」が誕生した。
- ・触る絵本の制作講座を各地で開催し、昭和57年に、京阪神12グループで構成する「さわる絵本連絡協議会・大阪」を結成し、情報交換・読み聞かせ会・展示会・普及を4つの柱として活動をしている。
- ・触る絵本の制作は大阪市立中央図書館で、毎月第1土曜日に実施している。大阪府立南視覚支援学校では読み聞かせ会を定期開催し、大阪府立北視覚支援学校では寄贈作品の修理などの細やかなアフターケアも行っている。
- ・図書館や福祉施設にも作品を寄贈しており、大阪市立中央図書館・大阪市立福島図書館・大阪市立大正図書館・池田市立図書館・東大阪市立永和図書館・泉南市立図書館・泉大津市立図書館・河内長野市立図書館・岸和田市立図書館の各図書館が作品を所蔵し、貸出を行っている。

[効果]

- ・触る絵本を視覚障がいのある子どもが、自分自身で楽しむことや、触る絵本を誰かに読んであげることでもできるため、視覚障がいの有無に関わらず、全ての子どもと一緒に楽しんで読書活動を行うことができる。



多言語・多文化の読書活動

《おおさかこども多文化センター》

○多文化にふれる えほんのひろば

- ・子どもゆめ基金等の助成、大阪市立中央図書館の協力を得て、年に一度2日間にわたって、日本の絵本と25言語にわたる外国語絵本、約750冊を表紙が見えるようにずらりと並べ、自由なスタイルでゆっくり楽しめる「多文化にふれる えほんのひろば」を実施している。
- ・地域で暮らす外国から来た親子も参加できて、日頃なかなか見る機会のない母語の絵本を読むことができ、外国にルーツのある高校生をはじめ在住外国人のスタッフが母語を活かした読み聞かせをすることで、全ての子どもが様々な外国の絵本を楽しむことができる。
- ・同時に、多言語でのおはなし会や異文化に触れることができるワークショップ、多言語電子絵本体験コーナー等を実施している。

[効果]

- ・参加者全てに、絵本を通して多文化を身近に感じる機会を提供する取組となっている。



〈えほんのお部屋 ひまわり畑〉

○地域における保護者や子どもがほっとできる場所

- ・「えほんのお部屋 ひまわり畑」は、乳幼児の預かり保育をしたり、民家の部屋を開放して絵本の読み聞かせを行っている「特定非営利活動法人（NPO法人）えほんのお部屋 ひまわり畑」が運営し、地域の保護者や子どもの居場所となっている。
- 毎日頑張っている保護者が、子どもと一緒に、ほっとできるような居場所づくりをめざしており、1階は絵本の部屋、2階はおもちゃの部屋になっている。
- 平日の10時半から14時半は子育てひろばや一時保育、14時半から17時半の放課後の時間帯には小学生のために部屋を開放し、子どもが自由に遊べるようにしている。

〔効果〕

- ・「えほんのお部屋 ひまわり畑」を通じて、地域の保護者や子どもに、地域の関わりを知ってもらうことができると同時に、ほっとできる地域の居場所となっている。
- ・絵本に囲まれた部屋で、絵本の大事さや魅力に触れる機会の提供に繋がっている。

○子ども食堂

- ・平成28年10月から枚方市の「子どもの居場所づくり推進事業」として始め、毎月第1第3金曜日に「ひまわり畑 子ども食堂」を開いている。
- ・子どもは、おもちゃで遊んだり、宿題をしたり、絵本を読んだりしながら食事の時間を待ち、絵本に囲まれた1階の食事スペースでわいわいと楽しくご飯を食べて過ごしている。

〔効果〕

- ・子ども食堂を利用する子どもや保護者に対しても、たくさんの本がある環境を提供することができている。

○出張 絵本の会

- ・「えほんのお部屋 ひまわり畑」に来ることのできない子どもや保護者に対して、定期的に、枚方市駅の商業施設をはじめ、図書館やカフェ、小児科などに出向き、絵本の読み聞かせ等を実施している。

〔効果〕

- ・「えほんのお部屋 ひまわり畑」に来ることができない子どもや保護者にも、絵本に触れる機会を提供することができおり、地域の人との繋がりを通じて、子どもや保護者の心の居場所を提供する一助となっている。

